

令和5年度(2023年度)第1回熊本県子ども・子育て会議(令和6年2月28日)

における発言(4 報告事項 (1)『『こどもまんなか熊本』の実現を目指して』での発言)抜粋

(八幡会長)

こどもまんなか熊本の理念に關しまして、これは、実はこどもまんなかと、どこかで少子化の打破を目指すというようなことが書かれているのですけれども、どのような環境に生まれ育ったこどもであっても、こどもが健やかに育つということがこどもまんなかの理念と。その結果として、この熊本でそういう保育環境や教育環境を受ける中で育つことが、最終的にはこの熊本でこどもを産み育てていきたいという、次世代の親世代を育てていくことに繋がる、というような視点でよろしいのでしょうか。非常にたくさんの視点が同時進行で書き込まれているものですから、やはり優先順位というのはメリハリつけるべきではないかなあというふうに思ったりするのですが、いかがでしょうか。

(小岱委員)

私のところの保育園に子育て支援センターが開設されたのが、平成6年です。1994年です。その前に1990年が1.57ショックでした。それで少子化が注目されて、厚労省は政策を出してきましたが。無残にも全く効果を上げておりません。30年間、少子化対策と言いながら、結局は失敗しております。この度、子ども家庭庁が発足しましたが、大変だと思います。社会状況を見ましても、未来を予測した場合、子どもにとって希望のある未来が思い描けない状況にある感じがします。若い人たちのあいだに、子どもを産みたくないという反出生主義が根底にあるような感じがします。

昨年県のトップセミナーもありましたが、私も11月に奈義町に視察に行ってきました。全国から議員、行政関係者の方が大勢きておられました。町の方の説明などありましたが、一番印象に残っているのは、少子化問題はお年寄りの問題でもあると言われました。お年寄りの年金を支えていくのは若い人たちです。こどもまんなかといいますが、もっと具体的に一人一人が子育てを支えていく、子育ての社会化がもっと必要です。今、結婚しない人が増えてきています。一生子どもを持たないで人生を終えていくわけです。

もう10年ほど前になりますが、イタリアのレッジョ・エミリアというところに行ってきました。世界中から幼児教育関係者が視察に訪れるところです。人口7万程の小さな市ですが、街全体で子どもの教育について、熱心に取り組んでいます。学校でも教育は地域の責任であると打ち出しています。街の中央には広場がありみんなで議論できるというふうになっています。

この度発足しました子ども家庭庁の名称にも家庭という言葉は不要かと思うのですが。家庭と言っても様々です。3世代同居の家庭など5パーセントぐらい。地方では単身世帯の割合が、3、4割で、お年寄りの一人暮らしが多いそうです。東京では、単身世帯が5割を越したと聞いたことがあります。いわゆる、結婚しない人が増えているわけです。おそらくこの趨勢は続きそうな感じがします。

そういう中で、子どもを持たない人も一人一人が、子育ての意識も持つというのが大事かなと思います。かつてある政治家が、独身税を導入しろという暴論を言った人がいますが、社会全体で子育てを支えていくという、もっと具体的な方策がもとめられています。

子育て支援センター事業に30年間取り組んできましたが、この30年間は子どもをとりまく環境が大きく変わってきています。スマホなどのメディア、食、発達障害、虐待の増加など、子どもの健やかな発達を阻害するものが増えてきています。当協議会において、今後の子育て支援のあり方について、時代の状況をよくみながら議論をしているところです。